

■ 効果の見える治水事業

愛媛県 かみなだにし 上灘西海岸環境整備事業

『海岸のにぎわい』

愛媛県中予地方局建設部長 みよし つぎお 三好 次男



■ 事業の概要

上灘西海岸は、伊予市双海町に位置し、伊予灘を望む風光明媚な海岸で、背後に国道378号とJR予讃線が併走しており、交通の便もよく、県内有数の海水浴場として利用されています。また、地元物産品を取り扱う「道の駅」も併設されており、今後も安全で良好な海岸空間として、より一層のにぎわいが期待されています。

本海岸は、台風の高波による国道の通行止めや背後人家の安全確保に対処するため、当初は高潮対策事業として昭和56年度から離岸堤の整備を進めてきました。平成元年度からは、県の「高潮対策事業」、「県単独海岸事業」、「道路事業」と市(当時は、双海町)の「ふたみシーサイド公園整備事業」を合併し、平成5年度までに緩傾斜護岸や暫定断面での養浜整備を行い高潮対策としての事業が完了しました。

その後、養浜の観測や、シミュレーションに基づいた養浜砂の移動について調査したところ、前浜の浸食傾向が確認されたため、完成断面での養浜の施工が必要となりました。当該箇所については、砂浜による消波機能の確保はもとより、海水浴場利用者から広い砂浜(最大利用者2,500人/日)の要請が強いことから、長年にわたる海水浴場としての機能確保、周辺施設の利用、景観等を考慮して対策工法を検討し、養浜を安定させるため、平成8年度から海岸環境整備事業で突堤や養浜等を整備しています。

事前の生態系調査により当海岸にはナメクジウオ等の砂底に生息する生物や、メバル等の岩礁を好む魚類など多数の生物が確認されたことから、生物の生息場所及び堤内の海水浄化に有効な捨石式の突堤及び潜堤を設置しています。

【事業概要】

事業名 海岸環境整備事業
 事業期間 H8～H10
 突堤 3基
 213m、136m、40m
 潜堤 261m
 養浜 3.6ha
 防護柵 305m

位置図



上灘西海岸

利用状況(海浜)



利用状況(道の駅)



整備後の状況(全景)



上灘西海岸 と 道の駅「ふたみシーサイド公園」



伊予市長 なかむら たずく 中村 佑

伊予市は、愛媛県のほぼ中央に位置し、道後平野の西南部から四国山地の一部にわたり、西北は風光明媚な瀬戸内海に面しており、県都松山市から西へ約10km、南予の玄関口に位置している人口約4万人の小さな市であります。

古くは、伊予灘の恩恵とともに今日まで、現在の市中心部の伊予港を拠点に水産・加工、木材加工で栄えた町であり、近年は合併前の双海町が「伊予の夕日」をキャッチフレーズにした「夕日をテーマ」にまちづくりを進めるなど、瀬戸内海の海岸は「伊予市の歴史・文化・産業」を育ててまいりました。

本市の海岸は8つのブロックに分かれており、その中の一つが上灘西海岸の「ふたみシーサイド公園」です。海岸環境整備事業、国道378号道路改良事業、林野地すべり事業の残土搬入など、さまざまな事業を総合的に推進して人工海浜の観光の拠点として整備され、ドライブコースの「夕やけこやけライン」の休憩所として旧建設省(現国土交通省)から平成6年8月4日に「道の駅」の指定を受け、年間を通して50万人を超える観光客で賑わっています。

イベントも年間を通して、各種団体が多種多様に開催しており、海辺、養浜地365mを利用した一部をご紹介いたしますと、海水浴客はもちろんですが、商工会の魚のつかみ取り、各協会、団体のシーカヤック、ジュニアを対象としたカヌー教室、ビーチサッカー県大会、緩傾斜護岸を客席として利用した講演会や音楽祭、養浜地へ着陸するパラグライダー大会などさまざまなイベントが行われています。

最近では、養浜砂の移動を少なくするために造られた突堤を利用した「恋人岬」で、結婚式を挙げる若者も多く見受けられます。また、「NPO法人 地域活性化支援センター」が主体で進めている「恋人の聖地プロジェクト」において愛媛県で初めて「恋人の聖地」として認定され、これを機に2月14日はバレンタインデー、3月14日はホワイトデー、そして4月14日はオレンジデーとして夕方からキャンベラ点灯イベントを開催しているところでもあります。

今後とも、国、県のご高配を戴きながら、施設整備の充実を図り、人と人との交流の拠点として安全に利用できる空間づくりに取り組んで参りたいと考えています。



カヌー教室



ビーチサッカー大会



恋人岬での結婚式